

誓等云云。又云、是我弟子。應弘我法等云云。妙樂云、子弘父法等云云。道暹云、由法是久成法。故付久成之人等云云。此妙法蓮華經の五字をば此四人に被讓候。而に佛滅後正法一千年・像法一千年・末法に入て二百二十餘年が間、月氏・漢土・日本・一閻浮提の内に、未だ一度も出させ給はざるは何なる事にて有らん。正くも讓らせ給はざりし文殊師利菩薩は、佛滅後四百五十年まで此土におはして、大乘經を弘させ給ひ、其後も香山・清涼山より度度來て大僧等と成て法を弘め、藥王菩薩は天台大師となり、觀世音は南岳大師と成り、彌勒菩薩は傅大士となれり。迦葉・阿難等は佛滅後二十年四十年法を弘め給ふ。嫡子として讓られさせ給へる人の未だ見えさせ給はず。二千二百餘年が間、教主釋尊の繪像木像賢王聖主本尊とす。然れども但小乘・大乘・華嚴涅槃・觀經・法華經の迹門・普賢經等の佛、眞言大日經等の佛、寶塔品の釋迦多寶等をば書ども、いまだ壽量品の釋尊は山寺精舎にまします。何なる事とも量がたし。釋迦如來は後五百歳と記し給ひ、正像二千年をば法華經流布の時とは仰せられず。天台大師は後五百歳遠沾妙道と未來に讓り、傳教大師は正像稍過已末法太有近等書給て、像法の末は未だ法華經流布の時ならずと我と時を嫌ひ給ふ。さればをしはかる(推

①(四)一 ②成り=生れ ③なれり=成り給へり ④(是)十まし